

韩立冬◎著

近代日本的中国留学生预备教育

1896年13名中国留学生进入东京高等师范学校学习，拉开了近代史上中国人赴日留学的序幕。本书重点考察了民国时期



北京语言大学出版社
BEIJING LANGUAGE AND CULTURE
UNIVERSITY PRESS

中央高校基本科研业务费

Supported by “the Fundamental Research Funds for

近代日本的中国留学生预备教育

韩立冬 / 著



北京语言大学出版社
BEIJING LANGUAGE AND CULTURE
UNIVERSITY PRESS

© 2015 北京语言大学出版社, 社图号 15047

图书在版编目 (CIP) 数据

近代日本的中国留学生预备教育 / 韩立冬著. — 北京: 北京语言大学出版社, 2015.4
ISBN 978-7-5619-4156-0

I. ①近… II. ①韩… III. ①留学生教育—教育史—研究—日本—近代 IV. ①G649.313

中国版本图书馆CIP数据核字 (2015) 第067252号

近代日本的中国留学生预备教育

JINDAI RIBEN DE ZHONGGUO LIUXUESHENG YUBEI JIAOYU

责任编辑: 郑文全
责任印制: 陈 辉

封面设计: 冯志才

出版发行: 北京语言大学出版社

社 址: 北京市海淀区学院路 15 号, 100083

网 址: www.blcup.com

电子信箱: service@blcup.com

电 话: 编辑部 8610-8230 1019/3393/3700

发行部 8610-8230 3650/3591/3648

读者服务部 8610-8230 3653

网购咨询 8610-8230 3908

印 刷: 北京中科印刷有限公司

版 次: 2015 年 4 月第 1 版

印 次: 2015 年 4 月第 1 次印刷

开 本: 710 毫米 × 1000 毫米 1/16 印 张: 26

字 数: 386 千字

定 价: 58.00 元

PRINTED IN CHINA

前 言

2008 年秋，我东渡日本，开始了留学生活。2009 年初，我顺利通过了入学考试，进入了梦寐以求的日本最高学府——东京大学，攻读博士学位，开始从事中国教育史、日本教育史以及中日教育交流史方面的研究。

由于本科专业便是日语，研究生期间又在由日本文部省与中国教育部合作成立的北京日本学研究中心接受了为期近三年的纯日式教育，因此，进入东京大学后，学习方面，语言基本没有障碍，也能够较快地适应教师的授课方法；生活方面，与日本同学相处融洽，并没有特别感受到所谓的“文化摩擦”。但观察周围其他中国留学生，并不尽如此。有些留学生日语基础比较薄弱，听、说、读、写都存在问题；有些则因为比较习惯国内以教师讲授为主的教学方法，对日本以讨论为主的教学方式明显不适应，课堂参与度不高；有些留学生，因缺乏对日本人思维方法及行为方式的了解，很难真正融入到周围的环境当中……诸如此类问题，不胜枚举。这些问题在留学生活中不可避免，而又是决定留学成果的重要因素。笔者认为，在留学生进入正式课程前，对其进行一定时期的预备教育，使其能够强化语言学习，逐步适应新的教学方法，了解当地的风土人情、风俗习惯，为其今后的学习和生活扫清障碍，奠定良好的基础，显得尤为重要。这种预备教育并不会造成时间的浪费，正所谓磨刀不误砍柴工。

本人在从事中日教育交流史研究的过程中发现，在近代中国人留学日本的历史上，针对中国留学生所进行的预备教育受到了当时各界的广泛重视。1896年，13名中国留学生进入东京高等师范学校学习，拉开了近代史上中国人赴日留学的序幕。自此之后的十年，赴日留学者络绎不绝，掀起了近代史上赴日留学的高潮。因此，学界一般称这十年为近代中日两国教育文化交流的“黄金十年”。但是，从教育水平的角度来讲，这十年间的赴日留学生，绝大多数都是在民间专门为中国留学生设立的学校里接受速成教育或中等教育后直接回国，在日本高等教育机构与日本本国学生共同接受高等教育的留学生少之又少。为扭转这种局面，1907年中日两国政府签订了“五校特约”，指定文部省直辖的五所高等教育机构专门接收中国留学生。“五校特约”的缔结标志着中国留学生赴日的目的不再是接受面向留学生的速成教育或中等教育，而是接受真正的日本高等教育。为了使这些留学生在进入正式课程后能够更加顺利地与日本同学接受同样的教育，这五所学校中有四所专门为中国留学生设立了“特设预科”，对中国留学生进行为期一年的语言及其他基础科目的强化训练。此后，“特设预科”制度随着两国政治关系与教育制度的变化而不断变化，但一直持续至二战结束。除了上述文部省直辖校的特设预科为中国留学生进行预备教育外，民间各种私立学校也为中国留学生提供赴日后、升学前的预备教育。此外，东亚同文会在天津、汉口分别设立了两所留学预备学校，为学生提供赴日留学前的预备教育。

本书首先考察了日本文部省直辖学校特设预科制度的初建、整合和发展的过程，并以帝国第一高等学校特设预科为主要线索，调查了教学一线的留学生教育的实际情况。本书不仅通过对第一高等学校留学生的课程设置、成绩考核、教材使用等问题进行分析，考察了该校的留学生教育方针，还对当时同在一间教室内学习，同在一个屋檐下生活的中日两国学生的交往情况及其相互认识进行了考察。对于民间的预备教育机构，本书则考察了二战前日本最大的、专门招收中国留学生的私立预备教育机构，即东亚高等预备学校的

留学生教育与中国国内的天津中日学院、江汉高级中学的留日预备教育。本书除对上述三类留学生预备教育机构的具体情况进行考察外，还分析了三者之间的相互关系，并分别论证了它们对留学生教育所起的作用及存在的问题。

鉴于以往的近代中日教育交流史的研究对象主要集中在清末，本书将考察的重点放在民国时期，弥补了国内对民国时期留日学生研究的空白，相信这对于中国人日本留学史研究、中日近代教育交流史研究都具有一定的推动作用。文中大量引用了笔者留日期间在外交史料馆、国立公文书馆、东京大学驹场博物馆等地搜集的第一手历史资料，希望这些能够成为国内学者进行此方面研究时的参考资料。除此之外，相信本书还将对今后我国外派留学生及接收海外留学生具有一定的参考价值。

本书是在向东京大学提交的博士论文的基础之上经删减、增补、修改而成的。博士论文能够如期完成并在今日得以出版，首先应感谢我的指导教师、东京大学大学院综合文化研究科的黑住真教授。虽然研究领域不同，但在研究方法上，黑住教授给予了我耐心细致的指导，并在我的论文撰写因东日本大地震而遇到困难时，给予了我莫大的鼓励与支持。我还要感谢日本福冈县立大学名誉教授、国立教育政策研究所名誉所员阿部洋教授。阿部教授虽 80 岁高龄，但多次亲自带我到国立教育政策研究所图书室、东京工业大学百年纪念博物馆查阅历史资料，并对我的论文撰写提供全程指导，并全文审阅。东京大学综合文化研究科的村田雄二郎教授、三谷博教授、川岛真教授以及神奈川大学的孙安石教授或在论文撰写过程中给予了指导，或参加论文答辩会，提出了宝贵的意见，特此致谢。硕士研究生时期的导师、北京外国语大学北京日本学研究中心的严安生教授、郭连友教授也曾在研究的起步阶段给予了我指导与无私的帮助，借此机会一并表示感谢。

本书能够得以出版，最应感谢的还是我的家人。今后我将继续努力，以回报家人的支持与默默付出。

最后，还要感谢北京语言大学为本书出版提供的青年学者文库出版基金资助。

由于时间仓促，本书暂时只能以日文形式与广大读者见面。希望今后有机会能够译成中文出版，得到更多读者的批评与指正。

韩立冬 于北京语言大学
2015年1月6日

目 录

序章 課題と構成	1
第一節 問題の所在	1
第二節 先行研究の検討と本書のアプローチ	6
第三節 構成と資料	10
第一章 「五校特約」と特設予科制度の成立	14
第一節 「五校特約」締結の背景	15
1. 全盛期の日本留学	15
2. 「量」から「質」への転換	18
第二節 「五校特約」の締結と特設予科制度	23
1. 「五校特約」の内容	23
2. 特約校の特設予科	28
第三節 「五校特約」の解約	33
1. 「五校特約」下の留学状況	33
2. 中国側の解約申し入れ	34
第二章 「東方文化事業」による特設予科の整備	38
第一節 アメリカの義和団事件賠償金による留学生受け入れ事業 の展開	39

1. アメリカによる中国教育文化事業への働きかけの始まり	39
2. 義和団事件賠償金の返還と清華学校の成立.....	40
3. アメリカ留学の隆盛とアメリカ留学出身者の活躍	45
第二節 日本の留学生受け入れ事業と「東方文化事業」.....	49
1. 留学生問題の浮上	49
2. 留学生受け入れ態勢の整備をめぐる動き	52
3. 「東方文化事業」の成立と展開	59
4. 「東方文化事業」による留学生受け入れ態勢の整備.....	62
第三節 「東方文化事業」下の特設予科.....	70
1. 特設予科主任者会議.....	70
2. 各特設予科の概況.....	75
3. 各特設予科の独自性	84
第三章 1930 年代初頭における特設予科の改編—高等専門学 校予備教育から大学予備教育へ	90
第一節 中国人留日学生学歴の変化	90
1. 六・三・三制の定着と新留学規程の制定.....	90
2. 駐日留学生監督姜琦の『意見書』.....	92
第二節 特設予科の改編.....	97
1. 一高・東京工大の特設予科の改編—特設予科から 特設高等科・附属予備部へ	97
2. 他の特設予科の対応	106
①他の特設予科の不振.....	106
②長崎高商と明治専門の年限短縮	109
第三節 偽満洲国学生の日本留学と特設予科	111
1. 偽満洲国留学生受け入れ態勢の整備	111
2. 特設予科における偽満洲国留学生の受け入れ	114

第四章 「五校特約」 下の一高特設予科.....	122
第一節 一高たるもの	123
第二節 特設予科成立前における一高の留学生受け入れ	128
1. 浙江省派遣学生の入学	128
2. 京師大学堂派遣学生の入学	131
第三節 一高特設予科の留学生受け入れ	134
第四節 特設予科修了者の進路	142
1. 高等学校への配当	142
2. 特設予科出身者の帝国大学入学	147
第五節 一高特設予科留学生の生活状況	153
1. 留学生と日本人学生との折合一日華同学会を中心に	153
2. 一高留学生と 1918 年の一斉帰国運動	161
第五章 「東方文化事業」 下の一高特設予科.....	166
第一節 一高特設予科の不振	166
1. 入学者数の減少と学力低下	166
2. 高等学校卒業難と大学入学難	171
第二節 留学生に対する管理監督	181
1. 思想調査	181
2. 留学生茶話会	183
3. 留学生生活の不安定と学費補給	185
4. 九一八事変時における留学生の取締まり	188
第六章 「東方文化事業」 下の一高特設高等科.....	192
第一節 特設高等科における留学生教育の実態	193
1. 入学試験	193
2. 教育内容	196
3. 学力低下と附属予科の増設	201

第二節 特設高等科卒業者の大学進学	204
1. 30年代後半における各帝国大学の中国人留学生受け 入れ態勢	204
2. 特設高等科卒業者をめぐる各帝国大学の態度	211
第七章 特設高等科問題をめぐる学生間の議論	224
第一節 特設高等科をめぐる留学生の議論	224
第二節 特設高等科をめぐる日本人学生の議論	232
第三節 特設高等科問題の結末	237
第四節 棣華会の活動	240
第八章 戦時下の一高特設高等科	
——元留学生の回想文を手がかりに	246
第一節 戦時中の特設高等科	247
1. 盧溝橋事変後の特設高等科	247
2. 特設高等科留学生に対する訓育事業の強化	250
第二節 わが回想の中の一高	254
1. 朱紹文(1935年特設高等科入学・1938年同科卒業)	255
2. 林連徳(1944年特設高等科入学・1947年同科卒業)	264
3. 李徳純(1944年特設高等科入学・1945年中退)	269
4. 趙安博(1935年特設高等科入学・1937年帰国)	276
5. 喬鐘洲(1939年特設高等科入学・1942年逮捕)	279
6. 林義春(1943年特設高等科入学・1944年9月～1946年 3月休学・1949年3月卒業)	281
7. まとめ	282
第九章 東亜高等予備学校の中国人留学生予備教育	290
第一節 「東方文化事業」下における東亜高等予備学校の 整備	290

1. 明治大正期の私立留学生特設教育機関	290
2. 東亜高等予備学校の創設と松本亀次郎	294
3. 日華学会との合併	296
4. 東亜高等予備学校の改善	298
第二節 東亜高等予備学校と特設予科	301
1. 東亜高等予備学校における留学生予備教育の実態	301
2. 日華学会高橋君平の『意見書』	306
第三節 留学生予備教育改編の動きと東亜高等予備学校	312
1. 留学生学歴の変化と特設高等学校設置案	312
2. 校名改称(「東亜学校」)と日本語高等班の開設	315
3. 第三次留学ブーム時の東亜学校	316
4. 大学予備教育へ——高等科文科の設置	318
第四節 戦時下における東亜学校の動向	320
1. 戦時中の留学生受け入れ	320
2. 高等理科の新設	323
3. 戦時下における留学生の指導訓育	326
4. 東亜学校の終焉	329
第十章 天津中日学院・江漢高級中学校の留日予備教育	332
第一節 天津・漢口両同文書院の創立	333
1. 東亜同文会の留日予備教育機関の設立構想	333
2. 天津・漢口両同文書院の発足	338
第二節 天津・漢口両同文書院の組織変更	343
1. 「東方文化事業」の発足と天津・漢口両同文書院	343
2. 教育権回収運動と天津・漢口両同文書院	344
3. 学校の組織変更	347
第三節 天津中日学院・江漢高級中学校と特設予科	350
1. 校費による特設予科入学奨励制度	350

2. 留日予備校としての機能強化の構想と特設予科	354
第四節 留日予備教育機関の教育実態.....	361
1. 留日予備教育と学生数の確保とのジレンマ.....	361
2. 日本留学の状況.....	365
第五節 戦時下における天津中日学院と江漢高級中学校.....	369
1. 日本語教授による日本化教育——天津中日学院の場合	369
2. 留学予備教育の再強化——江漢高級中学校の場合	372
終 章 結論と本書の意義	378
第一節 結論と課題	378
1. 留学生予備教育の役割と問題点	378
2. 留学生を日本人並みに取扱う教育方針	382
3. 留学生受け入れにおける国と教育現場のずれ	383
4. 国家関係を越えた人間のネットワーク	384
第二節 本書の現実的意義	385
参考文献	387

図表目次

表序一 1. 各年度の留日学生数 (1896 ～ 44 年)	5
表 1-1 1909 年特約校受験生数及び合格者数	27
表 1-2 山口高商特設予科授業科目と授業時間.....	30
表 1-3 明治専門特設予科入学状況 (1917 ～ 22 年)	31
表 1-4 文部省直轄学校留学生在籍者数.....	33
表 2-1 清華学校中等科授業科目と時間数 (1913 年現在)	42
表 2-2 清華学校高等科授業科目と時間数 (1913 年現在)	42
表 2-3 清華学校学生数の推移 (1912 ～ 21 年)	43
表 2-4 清華学校における留学生の派遣状況 (1909 ～ 29 年)	44
表 2-5 コロンビア大学ティーチャーズカレッジの中国人留学生 受け入れ数 (1909 ～ 44 年)	47
表 2-6 1924 年度における学費補給留学生状況	64
表 2-7 学費補給留学生数統計 (1931 ～ 36 年)	65
表 2-8 特設予科各年度修了者上級学校進入状況	72
表 2-9 東京高工特設予科中国人留学生数 (1907 ～ 28 年)	76
表 2-10 明治専門特設予科入学状況 (1917 ～ 36 年)	83

表 2-11	特設予科試験科目	84
表 2-12	特設予科における日本語の教育状況	85
表 2-13	特設予科学科目及び教授時数調査	86
表 2-14	各特設予科志願者と入学者数 (1925 ～ 29 年)	87
表 3-1	東亜高等予備学校在学生学歴統計 (1925 ～ 32 年)	91
表 3-2	留日学生の学歴構成 (1931 年現在)	92
表 3-3	中国人留日学生在籍者状況 (1931 年 4 月現在)	93
表 3-4	各特設予科志願者と入学者数 (1925 ～ 33 年)	106
表 3-5	偽満洲国留日学生数の推移 (1933 ～ 37 年)	112
表 3-6	高等専門学校・大学における偽満洲国出身留学生の在籍状況 (1936 年 9 月現在)	113
表 3-7	特設予科在籍生国籍調査	118
表 4-1	高等学校大学予科卒業生 (1908 ～ 18 年)	125
表 4-2	高等学校卒業生の進路	125
表 4-3	高等学校志願者と入学者状況	127
表 4-4	一高特設予科第一部時間割	135
表 4-5	一高特設予科各年度志願者と入学者統計 (1908 ～ 22 年)	140
表 4-6	特設予科学科目及び毎週授業時数 (三部制時代)	141
表 4-7	特設予科学科目及び毎週授業時数 (文理科制時代)	141
表 4-8	一高特設予科修了者年度別統計	141
表 4-9	一高特設予科初回修了者の進路	144
表 4-10	一高特設予科修了生配当先年度別統計	145

表 4-11	特設予科出身者の大学入学先統計	150
表 4-12	各帝大卒業中国人留学生統計 (1930 年まで)	151
表 5-1	一高特設予科志願者と入学者統計表 (1914 ～ 31 年)	168
表 5-2	一高特設予科修了生配当先年度別統計	171
表 5-3	一高特設予科修了者高等学校進学状況統計 (1931 年 現在)	177
表 5-4	一高特設予科入学者中途退学者統計	178
表 5-5	予備教育機関の給費別在学者数 (1925 年 5 月現在)	186
表 6-1	特設高等科入学志願者及び合格者数	194
表 6-2	特設高等科入学統計 (1932 ～ 43 年)	195
表 6-3	1935 年度特設高等科志願者と入学者の入学前学歴統計 ...	195
表 6-4	1937 年現在特設高等科学科目及び授業時間配当表	198
表 6-5	1931 年現在高等学校高等科 (日本人学生) 学科目及び 授業時間配当表	198
表 6-6	1934 年度特設高等科生徒出席率	201
表 6-7	1935 年度特設高等科各学年成績統計	201
表 6-8	一高特設高等科附属予科志願者、入学者、修了者年度 別統計	204
表 6-9	中国人留学生留日学生数の推移 (1930 ～ 37 年)	205
表 6-10	東亜学校在籍者学歴	206
表 6-11	大学院志願者に関する東京帝大各学部の選考方法	207
表 6-12	東京帝大外国人留学生数 (1935 年 5 月末現在)	211
表 6-13	1935 年東京帝大日本人学生入学志願者調査	214

表 6-14	1935 年特設高等科第一回卒業生志望大学調	215
表 6-15	1935 年度特設高等科第一回卒業者大学進入統計	216
表 6-16	1938 年度特設高等科卒業生大学入学調査.....	220
表 6-17	各帝大における本科生中国人留学生受け入れ状況(1936 年 6 月現在)	221
表 7-1	一高特設予科修了生配当先年度別統計	225
表 7-2	一高特設高等科入学統計	226
表 8-1	中華民国留日学生数の推移 (1939 ~ 42 年)	248
表 8-2	偽滿洲国留日学生数の推移 (1938 ~ 44 年)	248
表 8-3	特設高等科卒業生年度別統計	249
表 8-4	戦時中における各特設予科志願者と入学者数 (1938 ~ 44 年)	251
表 9-1	日華学堂学科設置.....	291
表 9-2	外務省援助資金表 (1925 ~ 37 年)	298
表 9-3	東亜高等予備学校学科課程	300
表 9-4	東亜高等予備学校卒業終了者数 (1927 ~ 31 年)	302
表 9-5	東亜高等予備学校出身者上級学校入学統計 (1931 年 4 月調査)	303
表 9-6	各特設予科入学者数とその内東亜高等予備学校出身者 数統計	314
表 9-7	東亜学校年度別学生数 (1925 ~ 37 年)	317
表 9-8	東亜学校留学生の上級学校進学状況調査表	317
表 9-9	学科別教授時間数	319